

カーペットのメンテ

夏から秋へと季節が変わり、カーペットを出して模様替えされる方も多いと思います。カーペットはこれからの季節、断熱性や防音性も高く、部屋のイメージチェンジに最適なアイテム。今回はカーペットを長持ちさせる方法と素材別の特徴をご紹介します。

必見！カーペットを長持ちさせる方法

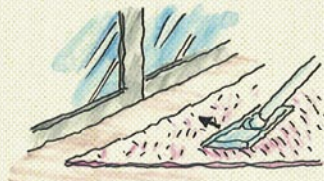
ガムを取る

カーペットにガムがへばりついた時は、ビニール袋に氷を入れてガムの上に当てます。ガムを冷やしてやればガムが固まり、簡単にはがす事ができます。



焼け焦げを修復

こげた部分をハサミでカットします。カットした部分を目立たなくするために、周辺の毛をカットした部分に寄せるようにして、ならします。カットした部分が大きい場合、同色の毛糸を適当な長さで切り、木工用ボンドで貼り付けます。



隅が丸くなってきたら

カーペットの隅が丸くめくれ上がり、どうしても戻らない時は、つまずいて怪我をする前に、カーペットの裏側にプラスチックの下敷きを適当な大きさに切って、木工用ボンドで貼り付け、戻しましょう。



目を立てる

1枚のカーペットでも、出入り口付近や、よく上にのりることの多い部分は、カーペットの目が倒れてしまいます。そんな時は、洗濯用の柔軟剤を20倍くらいに薄めて、目の倒れた部分にスプレーし、ドライヤーを当てながら、ブラシで目を立てるようにといていくと効果的です。

シミを防止する

カーペットは、いつまでもきれいなままで使いたいものです。そこで、新しく購入した場合、真新しいうちに、防水スプレーをしておく、シミや食べこぼしなどの汚れからカーペットを守る事ができます。防水効果が切れる前にさらに上塗りするのがコツです。

日焼け防止

南向きの部屋のカーペットは、日焼けで変色してしまいがちです。少しでも変色を防止するためには、掃除をするとき、カーペットの毛先が窓の方向に向くように掃除機を掛けてやりましょう。

素材別の特徴

一口にカーペットと言っても、実に様々な素材からつくられ、それぞれに違った特徴があります。それぞれの特徴を知り、使う場所やライフスタイルにあわせてかきこく選びたいものです。

●ウール

室内の湿度を調節する作用があります。保温性が良く、弾力性に富み柔らかくて暖かい。燃えにくいのも特徴です。そして空気の浄化作用があります。

●ポリプロピレン

酸・アルカリなど化学薬品に強く、防カビ、防虫に優れています。さらに軽くて強いのも特徴です。

●アクリル

保温性が良く、弾力性に富み柔らかくて暖かいなどウールと似た特性を持ちます。耐薬品性があり防カビ、防虫にも優れます。

●ナイロン

他の繊維に比べ非常に軽くて強く、耐薬品性があり防カビ、防虫に優れています。繊維のへたり、擦り切れに強く長持ちします。

バックナンバー

『207号カーペットいろいろ』『208号カーペットのお手入れ』もあわせてご覧ください。

上村建設

<http://www.e-uemura.jp>

住まいの宝箱

<http://www.e-juutaku.com>

賃貸物件をお探しの方は

<http://www.happy-house.co.jp>

★詳しいお問い合わせは各支店まで。電話番号は裏面をご覧ください。